

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名

山 口 県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	阿 東 町 立 阿 東 東 中 学 校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	0	3	10
生徒数	31	32	29	0	92	

研究の概要

1. 研究主題

『自ら学び、たくましく未来を拓く生徒を育てる教育の創造』

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

ワークシートの工夫

- ・全学年・国語、社会、数学、理科、英語の5教科
個に応じた指導を実施するため。

基礎学力定着シートの実践

- ・全学年・国語、社会、数学、理科、英語の5教科
基礎・基本の定着を図るため。

生徒による授業評価を生かした授業改善

- ・全学年・全教科
授業改善に役立てるため。

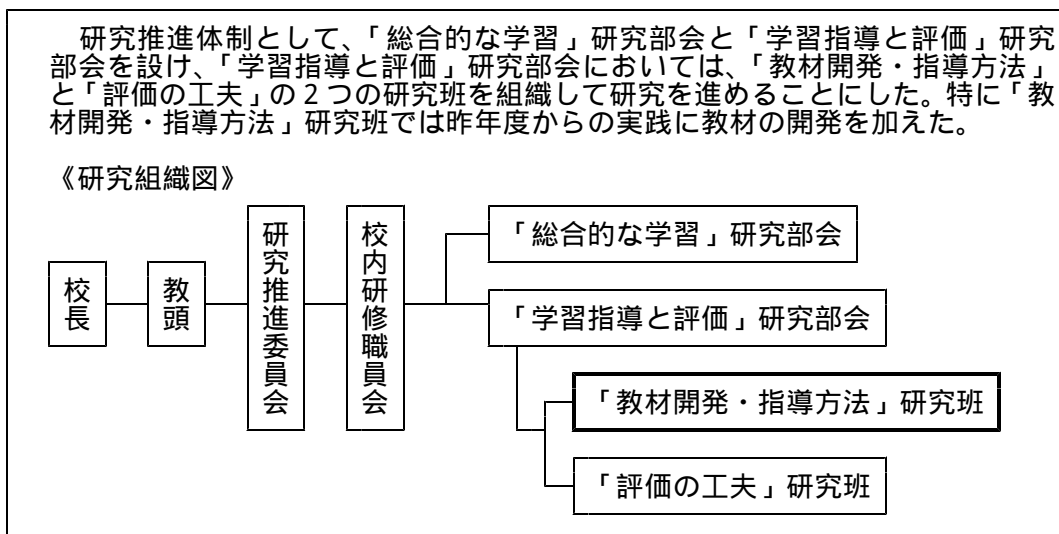
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「基礎学力の定着と個に応じた学習指導の工夫」 研究の見通し(仮説) 生徒の実態に応じて、多様な学習形態を取り入れ、学習指導を工夫・改善すれば、一人一人の基礎学力が定着するのではないか。さらに、生徒の学習意欲を高める支援や評価の工夫をしたり、基礎・基本の定着をめざした評価を工夫したりすることで、学力の向上をめざすことができるのではないか。そして、これらの指導と評価の一体化を図った実践を通して、確かな学力の向上を図り、ひいては自己の生き方を考え、自ら学び、たくましく未来を拓く力(本校で捉える「生きる力」)を身に付けることができるのではないかと考える。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 個に応じたきめ細かな指導のための指導方法、指導体制の工夫改善、生徒の学力を生かした指導の工夫をすることにより、学習意欲の向上や基礎学力の定着を図る。 ・少人数による授業などきめ細かな指導の実施 ・評価の研究による指導方法の工夫</p> <p>(2) 各教科において、発展的な学習や補足的な学習など個に応じた指導を工夫することにより、生徒にわかる喜びを味わわせ、主体的に学習する態度を育成する。 ・選択履修幅の拡大と多様なコースの開設</p>
--------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 「個に応じたきめ細かな指導と評価の工夫及び教材の開発」 研究の見通し(仮説) 生徒の実態に応じて、多様な学習形態を取り入れ、学習指導を工夫すれば、個に応じたきめ細かな指導が充実し、一人一人の基礎学力が定着するのではないかと考える。さらに、ワークシートなど学習意欲を高める手だてを考えると同時に、生徒による授業評価を取り入れるなど評価を工夫し授業改善を行っていけば、学力の向上につながるのではないかと考える。そして、これらの指導と評価の一体化を図った実践を通して、確かな学力の向上が図れ、ひいては自ら学びたくましく未来を拓く力(本校で捉える「生きる力」)が育つのではないかと考える。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 個に応じたきめ細かな指導のための指導方法、指導体制の工夫改善、生徒の学力を生かした指導の工夫をすることにより、学習意欲の向上や学力の向上を図る。 ・少人数による授業などきめ細かな指導の実施 ・授業評価を生かした授業改善</p> <p>(2) 各教科において、発展的な学習や補足的な学習など個に応じた指導を工夫することにより、生徒にわかる喜びを味わわせ、主体的に学習する態度を育成するとともに基礎学力の定着を図る。 ・ワークシートの工夫 ・基礎学力定着シートの実践</p> <p>* 昨年度の中間報告書の内容から変更された点 ・昨年度の成果と課題をふまえ、仮説及び研究内容・方法の一部見直しをしたため。</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 「研究の成果の検証とその成果の普及」 研究の見通し(仮説) これまでの研究をふまえ、研究の成果を検証するとともに継続的に取り組むことで「確かな学力」の向上につながるのではないかと考える。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上のための実践研究 ・研究の成果の検証及び成果の普及
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

ワークシートの工夫

ワークシートを工夫することにより、個に応じたきめ細かな指導が充実してきた。特に英語科では1学級を2つのコースに分けた少人数指導を行い、ワークシートもコースに応じて発展的な内容や補完的な内容を取り入れている。基礎コースでは段階をおって丁寧に時間をかけて授業を展開しているのので、生徒は一つ一つの練習を確実にこなし、そこで得た基礎・基本を基にキーセンテンスを使って英語で表現することができるようになってきた。発展コースではできるだけ英語による授業を展開しており、ワークシートで学習することによって、自分のものになるまで繰り返し学習をしているので、定着度が上がってきた。

基礎学力定着シートの実践

- ・国語...漢字などの30問程度の基本問題を2～3回繰り返し学習をしていると、確実に正答率が上がった。また、9割以上の正答率に達するのも早まった。
- ・社会...内容の範囲を事前に予告することで学習への意欲が高まってきた。また、都道府県名などの10問の基本問題を2回実施すると、2回目ではほぼ全員が8割を超え、定着度も上がってきた。
- ・数学...計算などの30問の基本問題で満点をめざして意欲的に取り組み、基本的な問題を解く力も付いてきた。また、満点を取れる生徒は時間の短縮をめざして取り組むことで、速く正確に解く力が身に付いてきた。
- ・理科...前時の復習(5問)をすることで、学力の定着につながってきた。また、一人一人の理解度が把握でき、個に応じた指導のための教材の開発に生かすことができた。
- ・英語...教科書にある単語25問を3回繰り返すことで、回を重ねるごとに得点上がり、単語力が身に付いてきた。また、学習への意欲が高まり、家庭学習の充実につながってきた。

生徒による授業評価を生かした授業改善

- ・生徒による授業評価表を作成し、活用することで教師の授業改善意識が高まり、授業改善に役立った。
- ・生徒による授業評価等を生かした授業改善表を作成し、授業改善に役立てることができた。

2. 今後の課題

ワークシートの工夫

- ・個に応じた指導のためのワークシートの工夫を行っているが、学力の向上を図るためには、すべての教科でワークシートの工夫など教材の開発を研究する必要がある。
- ・英語科においても、より個に応じたコース別の教材開発を進めることが大切である。

基礎学力定着シートの実践

- ・確実な定着を図るためにも、1か月を目安に定着度を検証し、内容や方法を見直す必要がある。
- ・一人一人の得点をデータとして記録を取っているが、継続的に記録するとともに成果をどのように検証するか、研究していきたい。

生徒による授業評価を生かした授業改善

- ・生徒による授業評価を継続的に行い、より一層の授業改善に役立てたい。
- ・生徒による授業評価表に一般的な様式を作成し実施してきたが、各教科、各単元の評価規準に応じた授業評価表を研究する必要がある。

学力把握のための学校としての取組

- ・校内の定期テストの実施...各学期1～2回
- ・標準学力検査(CRT)の実施...1・2年生を対象に1月に実施
- ・習熟度診断問題の実施...1・2年は2学期、3年は年5回
- ・山口県中学校教育研究会教科部会による県共通テスト(数学、英語)
...各学年、年1～2回

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 研究協議会や研究大会での発表
- ・少人数による授業などきめ細かな指導に係る研究協議会(6月)
- ・阿東町中学校教育研究大会(11月)
- ・学力向上フロンティア管内地区協議会(1月)
保護者や地域への普及
- ・学校開放週間、学校開放日の実施(10月、2月)
- ・学校便りの発行(月1回、校区内の公共施設7か所にも20部ずつ)
- ・取り組みの説明会(2月)
校内授業研究の実施
- ・各学期で研究授業を実施し、全教員が全教科にわたって行った。
- ・研究授業を保護者や学校評議員に公開した。保護者や学校評議員から提出された評価表を研究協議の資料とした。
- ホームページの作成(今年度中に完成予定)
- 他校からの研修視察
(11月に静岡県井川中学校、1月に島根県北三瓶中学校)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無